

4月21日に、本校3年生56名を対象に実施された「全国学力調査」について、結果がまとめられました。本年度は、国語・数学に加えて理科のテストも実施され、同時に家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施され、生活習慣と学力の関係など、本校の子ども達の状況をお伝えします。

### 総合結果

国語A、数学A、理科は全国平均に比べて8～9ポイント余り上回っており、国語B、数学Bは10～13ポイント程度上回っていました。これは、基礎的な学力の定着が比較的優れている他、特に知識を活用する能力にも優れているという結果が現れており、本校が全教科で進めている、少人数での話し合い活動・学び合い活動の成果が現れてきているのでは無いかと考えられます。

### 国語科より

A問題、B問題共に高い結果だった。領域別に見ると話す・聞く、書く、読む、言語事項いずれも高い中、「書くこと」が10～14ポイントと際だって高かった。解答方法別では、記述式問題の正答率が、10～18ポイント高いことが目立った。

その中で正答率が低かった問題は「彼が討論の（口火）を切った」「（たなびく）雲の間から」のように文脈の中で、適切な語句を選択するという問題で、後者は全問題で唯一全国平均より低かった。今後、具体的な場面と併せながら学習させるような指導法を考えていく必要がある。

### 数学科より

A問題、B問題共に高い結果だった。特に「計算」「関数」「図形の計量」では22ポイント高く、授業の最初に行っているスピード80による演習の成果が現れたと考えられる。

一方、「平面図形」「空間図形」など、学校で復習していない分野での正答率は低かった。合同条件を問う問題で、合同条件は分かっているが、答え方を深く考えずに間違っ傾向が見られた。

\* 「（ ）がそれぞれ等しい」。正答：二組の辺とその間の角 誤答：二辺夾角相等

基本の問題は、既習の方法でほぼ正確に答えられるが、それで満足し、別の解答方法を模索しようとする生徒が少ない。その結果、応用力があまり育っていないので、今後は、問題へのアプローチの工夫を目指したい。

### 理科より

知識問題は7ポイント、活用問題は10ポイント上回ってはいるが、校内だけで見ると正答率は、活用問題の方が12ポイント程度低い。

領域別では「生物」13ポイント、「地学」9ポイント、「物理」10ポイント、「化学」6ポイントそれぞれ高い。

本校の課題として、基本的な事柄は知っているが、理解があいまいで不十分な点があげられる。また与えられた条件の中で、理由や原因を考える力が弱い。雲の成因や電磁誘導のしくみを完全に説明できた者が少なかった。今後は、一つの事柄を多面的に理解する力や、現象の原因を考えるとときに、どのような条件が元になっているかを正しく説明できる力を伸ばしていきたい。

### 生徒質問紙より

起床時間など基本的な生活習慣に関しては多いもので15ポイント、チャレンジ精神についても10ポイント程度上回っており、望ましい生活習慣、自尊感情、コミュニケーション能力が育っていると見える。また家庭の時間の使い方も、望ましい状態が見られる。

そうした中で、唯一全国平均を下回っているのが、家庭での授業の予習・復習時間である。その部分を改善していけば、さらなる学力の向上が期待できる。

それでも国・数・理の学力調査は高い値を示していることや、話し合い活動・遵法精神・仲間との絆・自尊感情などが全国平均よりかなり高いことなどは、本校が全教科で推進している、小集団での話し合い活動、学び合い活動の成果が現れてきていることや、小規模校ならではの連帯感などが見て取れる。

### 保護者の皆様へ

全国調査は、子ども達の学習状況を知り、子ども達の可能性をさらに伸ばしたり、課題を解決していくためのものです。結果が学力の全てを表しているのではないし、順位を競うものでもありません。学力は、学校・家庭・地域での地道な積み重ねによって定着していくものです。

本校は、本校の様々な特色を活かし、伝統文化教育・小規模校の良さを活かした教育・小集団による学び合い活動など、烏丸ならではのスタイルを推進して参りました。その成果が徐々に学力にも反映されてきたように感じています。また、それらの学力の大元になる、基礎的な生活習慣や家庭での教育にも、大変素晴らしい土壌があると感じております。今後とも、さらに課題となる箇所を修正し、強化していくことで、さらなる学力の伸長があるものと思いますので、引き続き、子ども達の健やかな育ちと学びの環境作りにご協力をお願い致します。